■尾瀬の外来植物状況について

群馬側担当理事　小鮒　守
理事　大山昌克

2018 年特別保護地区内の群馬側の 2 つの拠点中心に、外来植生の調査を行いました。確認できた外来種を一覧としてまとめましたのでご報告します。

同年 1 月に第 4 次尾瀬学術調査団より記者会見がありました。その内容は尾瀬山小屋周辺の外来植生侵入に対する、深刻な懸念状況を伝える会見でした。全国、地方紙ともども大きく報道されましたのでご存知の方も多いと思いますが、新聞の抜粋を記しておきます。

＜尾瀬の外来植物広がる-第４次学術調査で「在来種絶滅の恐れ」＞

尾瀬国立公園の特別保護地区内に、ヨーロッパ原産の多年草「コテングクワガタ」などの外来植物が広がっていることが、今年度始まった第４次尾瀬総合学術調査で分かった。10 日、東京都内で開かれた同調査の報告会で、県立自然史博物館の大森威宏学芸員が報告した。

大森学芸員によると、**コテングクワガタ**は数年前から保護地区内で発見されていたが、今回の調査で全ての山小屋周辺で生育しているのが確認された。株数は在来種であるテングクワガタの 10 倍以上あり、一部では二つの種が交雑していた。コテングクワガタの場合、ヘリコプターの基地がある大清水（片品村）や御池（福島県檜枝岐村）に群落があった。大森学芸員は「**山小屋への物資や工事用資材搬送の際に運び込まれた可能性が高い**」と指摘している。大森学芸員は「**外来種と混じり合うことで、在来の純粋種が絶滅する恐れ**がある」と話している。

2018/1/11-読売新聞抜粋

○調査内容

尾瀬内の植生観察時に、山小屋、休憩所、木道周辺に侵入してきた「外来種」も併せて目視による確認調査を継続しています。

尾瀬侵入外来種の代表格の一つは、オランダガラシです。昭和 20 年代後半に山小屋が栽培していたものが逸失したと言われるオランダガラシは、国指定-生態系被害防止外来種です。オランダガラシは切れ藻によって分布域を広げるため、生息面積は顕著に拡大、一部の湿原では我が物顔で咲き誇っています。山小屋の周辺から勢力を拡大、今では湿原の奥深くまで入り込んでいる状態です。

○2018 確認された外来種（帰＝帰化植物）

鳩待峠（18種）		山の鼻（13種）	
帰	エゾノギシギシ	帰	エゾノギシギシ
	オオバコ		オオバコ
	オトコヨモギ	帰	オランダガラシ
帰	クサイ	帰	クサイ
	ゲンノショウコ		ゲンノショウコ
帰	シロツメクサ	帰	コテングクワガタ
	スギナ		コハコベ
帰	セイヨウタンポポ	帰	シロツメクサ
	ドクダミ		スギナ
帰	ノボロギク	帰	セイヨウタンポポ
	ノミノフスマ	帰	ヒメジョン
帰	ハルサキヤマガラシ		ベニバナゲンノショウコ
帰	ハルジオン		ミヤマトウバナ
帰	ヒメジョン	帰＝帰化種 種名は五十音順	
	ベニバナゲンノショウコ		
	ミヤマトウバナ		
帰	ムラサキツメクサ		
	ヨモギ		

○環境省「生態系被害防止外来種」指定種

2016 年 3 月環境省は、侵略性が高く、生態系に被害を及ぼす恐れの大きい「生態系被害防止外来種リスト」を公表、植物は 200 種を指定しました。

このリストは「2020 年までに侵略的外来種とその定着経路を特定し、優先度の高い種を

制御・根絶すること」が、生物多様性条約第10回締約国会議で採択（愛知目標）され、国内では同年9月に閣議決定された「生物多様性国家戦略2012-2020」に基づくものです。

侵略性の高い外来種の選定は、専門家によるワーキングチームにより整理され、『外来種についての国民の関心と理解を高め様々な主体に適切な行動を呼びかけることで、外来種対策の進展を図ることを目的』として公表しました。

しかしながら尾瀬を見る限り、外来植生が指定され、生態系被害防止外来種が、国立公園内の特別保護地区内に蔓延しているにも関わらず、未対応の状態となっています。全く実効性が伴っていない不作為な状態が継続され、それは極めて不適切な対応です。残念ながら空念仏のようなリストとなっています。

○尾瀬国立公園-特別保護地区内に生息する
＜生態系被害防止外来種＞

和名	科	カテゴリー
エゾノギシギシ	タデ科	総合対策外来種（その他の総合対策）
コカナダモ	トチカガミ科	総合対策外来種（重点対策）
ハルガヤ	イネ科	総合対策外来種（その他の総合対策）
オランダガラシ	アブラナ科	総合対策外来種（重点対策）
セイヨウタンポポ	キク科	総合対策外来種（重点対策）
ヒメジョオン	キク科	総合対策外来種（その他の総合対策）
オオハンゴンソウ	キク科	総合対策外来種（緊急対策）
ハルザキヤマガラシ	アブラナ科	総合対策外来種（その他の総合対策）

○2018外来植生調査参加者（敬称略）

6/1～2	6/7～8	7/5～6	8/11	9/29
小鮒	小鮒	小鮒	小鮒	小鮒
大山	大山	大山	大山	**大山**
伊藤（ア）	椎名	須賀	伊藤（ア）	伊藤（ア）
長島	**鈴木(恵)**	横田	長島	長島
藤澤	坂本		坂本	**坂本**
	横田		須賀	**円谷**
	須賀		中島	**鈴木(恵)**

上毛新聞（2019年1月12日）によれば、尾瀬総合学術調査では約70名の研究者が衛星やドローンを使った植生調査、温暖化の影響など12のテーマで調査を継続しています。調査団の経過報告会の中で、外来植物についても報告がありました。

『動植物の変化を調査している群馬県立自然史博物館の大森威宏氏の報告では、尾瀬沼のほか、大江湿原でショウブやガマなど里の植物が多数確認されたことについて、「どこかのため池のような異様な風景だった」と述べ、人の活動やシカの食害などが影響をしているとの見方を示した。外来植物の広がりも報告された。尾瀬全域の山小屋周辺でコテングクワガタが確認されているのに加えて、至仏山山頂でセイヨウタンポポが発見されたといい、大森さんは「外来種が着実に根付いている」とした。』と報じています。

■ご参考までに

「尾瀬国立公園管理計画書」は、2013年（平成25年）8月に公表された（全84頁）。これは尾瀬の自然環境、保護、規制、公園事業及び行為許可、届出などが網羅されています。環境省関東地方環境事務所で策定された方針、計画で公園事業を行う内容が記されています。この中の外来植物について記載がありますので、抜粋します。

<u>第3章（2）①移入植物対策（P25）より</u>

『特別保護地区へ移入植物が侵入し、生態系を撹乱することを可能な限り抑えるため、「駆除すべき移入植物一覧表」を作成し、各対象種の駆除方法を定めた上で、特別保護地区において優先的に駆除作業を進めるとともに、駆除状況等の把握や新たな移入種の確認等を継続的に行っていく。特にオオバコやシ

ロツメクサ、ハルジオン等が多く生育している各集団施設地区や山小屋周辺の除去作業は関係者と協力のもと、優先的に行う。また、種子落としマットを現在設置している入山口もあり、侵入防止対策についても検討し、実施していく。

尾瀬沼におけるコカナダモの繁茂については、現在各県調査事業において停滞・衰退が確認されており、今後もその生育状況や動態について関係団体・関係者とともに確認を行っていく。』とあります。

またＰ26には、「埋設処理された過去の廃棄物の撤去」についても記載があります。この機会にぜひ尾瀬国立公園ＨＰよりご覧ください。

http://www.env.go.jp/park/oze/intro/files/131023aa.pdf

＜エゾノギシギシ＝山の鼻＞

※なおこの報告文は会報紙面の都合上＜サマリー編＞です。昨年以前に確認された外来種リストや添付資料などは、当会HPに掲載しますので、ご覧ください。

http://www.oze-net.com/

■尾瀬の“特別保護地区”内で確認された代表的な外来植生

ハルサキヤマガラシ（生態系被害防止外来種）
鳩待峠　（欧州原産）　撮影 2018/0608
コテングクワガタ　（欧州原産）
山の鼻-尾瀬ロッジ前　撮影 2018/0608
オランダガラシ（生態系被害防止外来種）
テンマ沢（ユーラシア大陸）　撮影 2018/0608

ノミノフスマ	
鳩待峠（移入種）	撮影 2018/0608

ドクダミ	
鳩待峠（移入種）	撮影 2018/0812

セイヨウタンポポ	（欧州原産）
鳩待峠	撮影 2018/0602

※尚、調査データは、紙面の都合上 HP 掲載予定（http://www.oze-net.com/）

一つひとつはきれいな花々ですが、尾瀬にはふさわしくないのです。

○外来種調査（山ノ鼻＝群馬側）

	帰化&移入	■山ノ鼻地区	文献データ 尾瀬保護専門委員/尾瀬の自然を守る会調査					尾瀬ネット調査			
			1982	1983	1984	1993	2005	2013	2014	2017	2018
		確認された移入種（五十音順）	G5 須藤/片野	G6 須藤/片野	G7 須藤/片野	会報-尾瀬の自然保護66号-町田	内海 先生/他	7/13 最終	10/3 最終	9/30 最終	2018年間 4回分
1		アオミズ	●	●	●						
2	帰化	アカミノタンポポ					●				
3		イヌガラシ	●	●	●	●					
4		イヌタデ	●	●	●						
5		イヌワラビ	●	●	●						
6		ウマノミツバ	●	●	●						
7	帰化	エゾノギシギシ	●	●	●	●	●	●	●	●	●
8		オオイヌタデ	●	●	●						
9	帰化	オオスズメノテッポウ								●	
10		オオバコ	●	●	●			●	●	●	●
11	帰化	オオハンゴンソウ									
12	帰化	オランダガラシ	●	●	●		●	●	●	●	●
13		カタバミ	●	●	●					●	
14		キンミズヒキ	●	●	●	●				●	
15	帰化	クサイ	●	●	●	●					●
16		ケキツネノボタン	●	●	●						
17		ゲンノショウコ	●	●	●	●				●	●
18		コウガイゼキショウ	●	●	●						
19		コケオトギリ	●	●	●						
20	帰化	コテングクワガタ									●
21		コナスビ		●	●						
22		コハコベ	●	●	●					●	●
23		シケシダ	●	●	●						
24		シロザ				●					
25	帰化	シロツメクサ	●	●	●	●	●	●	●	●	●
26		スイバ									
27		スギナ	●	●	●			●	●	●	●
28		スズメノカタビラ	●	●	●	●					
29	帰化	セイヨウタンポポ					●	●	●	●	●
30		セリ	●	●	●						
31		タニソバ	●	●	●						
32		タネツケバナ	●	●	●						
33		ツメクサ	●	●	●	●					
34		テングクワガタ	●	●	●						
35	帰化	ナガハグサ					●				
36		ナズナ				●					
37		ヌカボ				●					
38		ネズミノオ	●	●	●						
39		ノブキ	●	●	●						
40	帰化	ノボロギク	●	●	●						
41		ノミノフスマ	●	●	●						
42	帰化	ハルジオン				●	●				
43	帰化	ヒナギク	●	●	●						
44	帰化	ヒメジョン	●	●	●	●	●	●	●	●	●
45		ベニバナゲンノショウコ								●	●
46		ヒメヘビイチゴ	●	●	●					●	
47		ミゾソバ	●	●	●						
48		ミツバ	●	●	●						
49		ミノボロスゲ	●	●	●						
50		ミミナグサ									
51		ミヤマトウバナ	●	●	●						●
52	帰化	ムラサキツメクサ					●	●			
53		ヤノネグサ	●	●	●						
54		ヤマヌカボ	●	●	●						
55		ヨモギ		●	●						

○外来種調査（鳩待峠＝群馬側）

	帰化＆移入	■鳩待峠周辺	文献データ 尾瀬保護専門委員/尾瀬の自然を守る会調査					尾瀬ネット調査			
			1982	1983	1984	1993	2005	2013	2014	2017	2018
		確認された外来種＆移入種（五十音順）	G5 須藤/片野	G6 須藤/片野	G7 須藤/片野	会報-尾瀬の自然保護 66号-町田	内海先生	7/13	10/4	9/30	2018年間 4回分
1		アキノウナギツカミ								●	
2		イヌガラシ				●					
3		イヌタデ(アカマンマ)							●	●	
4		エゾノギシギシ	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5	帰化	オオウシノケグサ				●	●				
6	帰化	オオスズメノテッポウ								●	
7		オオバコ	●	●	●			●	●	●	●
8		オトコヨモギ									●
9		オニウシノケグサ				●	●				
10		オランダミミナグサ									
11		カタバミ	●	●	●				●	●	
12		カモガヤ					●			●	
13		カラハナソウ				●					
14		ギシギシ								●	
15	帰化	クサイ				●					●
16		ケキツネノボタン						●	●	●	
17		ゲンノショウコ								●	●
18		コアカザ								●	
19		コウゾリナ								●	
20		コケオトギリ	●	●	●						
21	帰化	コヌカグサ				●	●				
22	帰化	シロツメグサ					●	●	●	●	●
23		スイバ								●	
24		スギナ									●
25		スズメノカタビラ	●	●	●					●	
26	帰化	セイヨウタンポポ					●	●		●	●
27		タネツケバナ								●	
28		ドクダミ								●	●
29	帰化	ナガハグサ					●				
30	帰化	ナガバノギシギシ								●	
31		ノブキ								●	
32	帰化	ノボロギク				●	●				●
33		ノミノフスマ									●
34	帰化	ハルサキヤマガラシ				●	●				●
35	帰化	ハルジオン					●			●	●
36	帰化	ヒメジョン				●	●	●	●	●	●
37	帰化	ヒレハリソウ（コンフリー）					●				
38		ベニバナゲンノショウコ								●	●
39		ミノボロスゲ	●	●	●	●					
40		ミヤマトウバナ	●	●	●					●	●
41	帰化	ムラサキツメクサ					●		●		●
42	帰化	メマツヨイグサ					●				
43		ヨモギ								●	●

過去データ資料

・Ｇ＝群馬県発行「尾瀬の自然保護」　発行年・回号

・内海先生＝

①1993-内海廣重、浅井康宏、町田安正、平井敬二、横山久夫、染野豊、

②1997-内海廣重、浅井康宏、小池貞夫、村杉幸子、平井敬治、

③2002-内海廣重、浅井康宏、今野昇、曽根仁一、鈴木莞爾、鈴木道子、

④2005-内海廣重、南條鉄雄、長浜陽介

・尾瀬の自然を守る会発行-会報誌「尾瀬の自然第 66 号（1993)」

尾瀬侵入植物調査報告書（町田安正）

以上